

＜銀杏並木＞キャンパス入り口からの上り坂には歩道の両側にイチョウ（銀杏）の並木とツツジの植え込みがあります。写真のように若葉の色と花の赤が映え、今が1年を通してとりわけ美しい時期です。100本強のイチョウが植わっていてそのうち1/4ほどが数年前からギンナンを付け出しました。この時期には開きすぎたハートの形をしたギンナンの子供がもうしっかりと付いています。



（イチョウ）漢字では“銀杏”と書きますが、これは“ギン・アン→ギンナン”です。イチョウは中国語の“鴨脚、イアチャオ”（葉の形）が変じたものと言われます。日本ではイチョウもギンナンも漢字で“銀杏”となりいささか混乱しますね。ところで生きた化石と言われるイチョウは長命で樹齢千年以上のものが現存します。葉にはギンコライドなど様々な薬効成分が含まれています。ギンナンは茶碗蒸しや酒のつまみになりますが食べ過ぎると中毒を起こします。



＜白い花のはしり＞これから6月までウツギなど白い花を咲かせる木々が目立つ季節になるのですが、そのはしりがウワミズザクラとアオダモでしょうか。ヤマザクラの後ほんの少しの間をおいて谷の斜面の大きな樹が若葉の緑と透き通るような白で一杯になりました。

ウワミズザクラの花は10cmほどの白いブラシ状をしていて近づくとほんのりとよい香りがします。一方、アオダモは白くて細い花弁に大きな黄色の雄しべが目立ちます。



＜ウワミズザクラ＞



＜アオダモ＞

昨夏にはすでに恐竜の爪のような堅い芽を付けていましたが、この春のために早々と準備していたようです。枝も幹も堅い木でバットやラケットの材となります。（ウワミズザクラ）上溝桜と書き、名前は材に溝を彫り亀甲占いに用いたためとされています。若い花穂と実の塩漬は“杏仁子（あんじんご）”といわれる新潟の郷土料理の食材です。（アオダモ）樹皮にはクマリン配糖体が含まれ水に浸すと蛍光を發します。また民間薬として消炎や利尿に用いられてきたようです。

＜林の木陰と日だまり＞道路わきの林の木陰に大きな手のひらのような葉をした植物が一株生えていてその根本を見ると何とも奇妙な花が咲いています。手招きしているような形のもの



のものが仏炎苞、そして黒いひも状のものが50～60cmほど花の先から伸びています。



これを釣り糸に見立てたためかウラシマソウ(上写真)と言います。一方、落ち葉の集まった陽だまりではカナヘビ達(左写真)が元気よく活動を始めました。

（文と写真：松本正勝）